

## 下庄をよくする会

### 1 基本データ

○地区名 下庄地区

○人口 8,927人 (平成27年1月)

○世帯数 2,885世帯(平成27年1月)

○地区の沿革

下庄地区は大野市の北西部に位置し、勝山市に隣接している。昭和29年に2町6ヵ村が合併して大野市が誕生した時に、下庄町も大野市に編入された。

地区内には、国の九頭竜川ダム総合管理事務所や県の奥越土木事務所、奥越合同庁舎のほか、ビュークリーンおくえつ、奥越明成高等学校、大野警察署、大野郵便局等の官公庁等が集中しており、国道沿いには複数の郊外商業施設も進出している。また、中部縦貫自動車道の大野ICも当地区に設置され、平成25年3月24日に供用開始となり、これに併せ、国道157号の大野バイパス(東縦貫線)も整備された。



○実施主体 下庄をよくする会

### 2 現状と課題

下庄をよくする会では、昭和54年の発足以来住民主体のまちづくり運動の推進に努

めてきた。本年度で27回を数える下庄まつりは地区内の各種団体が参加し、地区を挙げての行事となっている。毎年多くの来場者でにぎわい、地区民の交流促進、団結力の強化、地区の活性化に大きな成果を上げている。

また、地区内の一人暮らし、二人暮らしの高齢者宅に手打ちそばを届ける「まごころそばサービス」、JR越美北線沿線でのタイム植栽や河川や山際の環境パトロールなどの環境美化活動など、その活動は多方面にわたり、福井県や公益社団法人日本河川協会、中日新聞社などから数々の表彰を受けている。



これらの活動を支えるのは、地区内の各種団体から選出される委員と33地区から推薦される地区推進委員、そして会の趣旨に賛同するまちづくり運動協力者からなる約90名の委員である。しかし、まちづくり活動への意識には差があり、一部の委員に活動が偏りがちとなっている。

また、長く活動をけん引してきた役員も年齢を重ね、より若い年齢層の参画が求められているが、思うように進んでいない。

若い世代の地域づくり活動への参加が少ないことも課題の一つである。昨年、地区内の自然や史跡などの地域資源を活用しなが

ら、自らも楽しめるような事業を企画、実施しようという趣旨に賛同する若者たちにより「しもプロ」が結成されたが、その活動は緒に就いたばかりであり、下庄地区の今後を担う後継者として育成するため、彼らが活動しやすい環境づくりを含め、引き続き支援が必要である。



しもプロ：ダックレースに向けての現地調査

地場産野菜の販路拡大と地区民の交流の場として、平成23年度にオープンした「下庄青空市」は4年目を迎え、徐々に地域に定着してきた。周辺住民など固定客も増えてきたが、出品登録者数が少なく、品揃えが十分でないため、早い時間に売り切れてしまうことも少なくない。経営の安定化を図るため、誰でも参加できる直売所として、さらに出品登録者を増やすことが懸案となっている。

### 3 事業の内容

#### 【後継者の育成：しもプロへの支援】

下庄地区は水資源に恵まれた地域である。この水の恵みに感謝し、身近な水環境に関心を持ってもらおうと、しもプロでは住民参加のイベント「みずかわ感謝祭」を企画、実施した。全く手探りの中で、4月から1



～2週間ごとに会議を開催し、数回にわたる現地確認やダックレースの実験、周

辺住民や区長宅へのあいさつ回りなど精力的に準備を重ねた。下庄をよくする会も当日は多数の委員がスタッフとして協力し、来場者からは好評を得ることができた。

#### ①木瓜川クリーン作戦（7月13日(日)午前8時～11時30分）

ダックレース会場となる三角公園（月美町）からフォレストタウン（東中野）までの木瓜川流域で、陽明中学校生徒や一般ボランティアなども加わり、川の中や堤防のゴミ拾い、草刈りを行った。



#### ②木瓜川ダックレース（8月2日(土)午前10時30分～正午）

木瓜川に背番号をつけた300羽のあひるのおもちゃを放流し、着順を競った。事前にエントリー券を販売し、参加者らは自分のダックを追いかけながら川に沿ってゴールまで移動。表彰式は中野清水で行った。





③水辺の灯りまつり（8月2日（土）午後6時30分～9時）

約1,000個の紙コップキャンドルと牛乳パックで作った紙灯籠で中野清水を飾り、幻想的な景色を演出した。紙コップの一部には地元の保育園児が絵を描き、陽明中学校美術部も紙灯籠づくりに協力した。



④下庄キャンドルナイト（2月14日（土）午後5時～8時）

下庄小学校にしもプロ会員が招かれ、3、4年生にしもプロの活動を紹介したところ、児童たちから自分たちも地域活性化のためにイベントを行いたいという声が上がった。これを機に、児童たちによる「しもキッズ」が誕生し、しもキッズとしもプロの共催によるキャンドルイベントを実施することとなった。

下庄小学校校庭を児童手作りのエコキャンドルなど約3,000個のろうそくと



LEDライトで飾った。オープニングセレモニーではしもキッズによるふるさとの合唱やイベントを実施するに至った経緯を寸劇で披露するなど、児童による趣向を凝らした演出が行われた。体育館では、しもキ

ッズがゲームコーナーを担当し、自分たちも楽しみながら来場者をもてなした。



【「ふるさと探訪 下庄の名所・史跡」の発行】

平成13年に下庄をよくする会が発行した地区内の名所や史跡の紹介冊子「下庄の名所・史跡」を改訂し、新たに「「ふるさと探訪 下庄の名所・史跡」として発行し、地区内の全世帯、小中学校等に配布した。

改定作業は下庄をよくする会文化部が中心となって、掲載箇所の選定や説明文の執筆、レイアウト等を検討し、重ねた会議は21回を数えた。

【直売所「下庄青空市」の開催】

6月15日から11月16日までの毎週日曜日に、下庄公民館敷地内において「下庄青空市」を開催した。8月13日（水）にはお盆用の仏花を中心に夕市も開催した。

地区団体が開催する行事に青空市が農産物を納入するなど、地域との連携も図った。

【まちづくり講演会の開催】

1月27日（火）に、「人口減少および少子高齢化時代におけるまちづくり」をテーマに講演会を開催した。講師は福井新聞社論説委員長 北島三男氏。

#### 4 事業の成果

【後継者の育成：しもプロへの支援】

木瓜川クリーン作戦に合わせ、周辺区でも社会奉仕の同日開催を区長会に依頼したところ、快諾を得られた。区民は直接クリーン作戦に加わったわけではないが、河川

清掃を行う参加者の姿を目にすることで、イベントの周知や趣旨の理解が得られたと思われる。クリーン作戦には下庄をよくする会委員だけでなく一般住民などのボランティア参加があり、ダックレースにも予想を上回る協賛金が集まるなど、地区においてもプロの活動が好意的に受け止められた。

**みずかわ感謝祭**

7月13日(日) 鴨レース開催  
鴨レースは、鴨の健康状態を確認し、安全に開催します。観覧料は無料です。鴨レースは、鴨の健康状態を確認し、安全に開催します。観覧料は無料です。

8月2日(土) 鴨レース開催  
鴨レースは、鴨の健康状態を確認し、安全に開催します。観覧料は無料です。鴨レースは、鴨の健康状態を確認し、安全に開催します。観覧料は無料です。

【ふるさと探訪 下庄の名所・史跡】の発行

当日は天候に恵まれたこともあり、ダックレース、水辺の灯りまつりともに親子連れなど大勢の来場者があり、住民参加型のイベントとして成功をおさめた。

一番の収穫は、みずかわ感謝祭などしもプロの活動がきっかけとなって、しもキッズとの共催イベント「下庄キャンドルナイト」につながったことである。キャンドルナイトは新聞やラジオでも取り上げられ、地区民をはじめ多くの人々にしもプロの活動を知ってもらうことができた。

児童との企画会議ではしもプロが先輩として助言する立場になり、会員たちの活動に対する意識が高まった。さらに、自分たちの活動が小学生の心を動かし、市内初となる小学生と若者との共催イベントが実現

したこと、イベント終了後、児童たちから



多くの感謝の言葉を寄せられたことで、会員たちに大きな自信が生まれた。

また、しもプロ会員だけではスタッフが不足することもあり、下庄をよくする会が全面的に支援することで、両団体の交流が深まり、下庄をよくする会主催の事業に参加を呼び掛けた際には、「恩返し」として参加、協力する会員も出てくるなど、活動の幅も広がった。

【「ふるさと探訪 下庄の名所・史跡」の発行】



改定作業を進めるにあたり、掲載箇所の見直しを行った。前回掲載した史跡等の現状を改めて調査する中で、当時の形状をとどめていないものがあることが確認される一方、新しい名所・史跡も掲載することができた。当



初は説明文を平易な表現に改めるだけにとどめる予定であったが、標記の内容にまで踏み込んで検討することになった。事実関係を再確認することで、文化部員たちの史跡に関する知識も深まり、その価値を一層認識できた。

改定作業の途中には、下庄小学校児童らに史跡のいくつかを紹介する機会があった。

また、イラストマップのデザインは地区内にある奥越明成高校に依頼した。奥越明成高校とは下庄まつりへの参加等で協力を得ているが、さらに学校と地域との連携を強化できた。生徒たちもイラストを担当した名所・史跡について関心が芽生えたようである。

#### 【直売所「下庄青空市」の開催】

出品者による協議会を開催し、下庄青空市のスムーズな運営に向けて意思統一を図るとともに、レジシステムの操作研修を実施し、特定の参加者にレジ業務が偏らないよう、負担軽減を図った。



青空市のオープンにあたっては、告知ポスターや下庄をよくする

会の機関紙である「下庄しるべ」等で広報したが、告知前からオープン期日の問い合わせが来るなど、地域への周知が浸透してきた。

また、なじみの薄い農産物を出品する場合には、その特徴や調理方法などを紹介するチラシを添付する参加者もあり、販売の工夫もみられるようになった。



#### 【まちづくり講演会の開催】

人口減少および少子高齢化時代のまちづく



りには「アンテナ」「質」「志」を高くし、地域経営という考え方が必要となるとの講師の話に、大きくうなづく姿が見られた。

参加者からは、まちづくりにかかわる者の意識改革や、故郷に戻らない子供と都会の子供の元に行く親の問題などについて活発な意見質問が出され、講演会終了後も講師を囲んで質疑応答が続いた。

#### 5 今後の展望

しもプロは、会員が知人に声掛けを繰り返したり、イベントへの参加をきっかけにしたりして、入会者も徐々に増えている。また、下庄小学校児童との共催イベント「下庄キャンドルナイト」は児童や保護者、学校関係者から大きな反響があり、次年度、新3、4年生によるしもキッズ2015との事業継続が期待される。会員の自主性を尊重しながら、地区内の各種団体との協力関係を強化し、若者がまちづくりに参加しやすい環境を整えたい。

地区内の名所・史跡の活用については、さらに学習を重ね、子供たちや地区外の人たちにも知ってもらえるような取り組みを検討したい。

下庄青空市は、出品者の増加と若い購買層への広報により販売額の増加を図りたい。加工品の製造については、施設の確保等課題が多いが、引き続き検討する。